

平成31年4月10日

福島大学記念誌（ことだま）を発刊しました！

創立70周年記念事業である「記念誌～ことだま～」を3月11日付けで発刊する運びとなりました。

本学学生、教職員、附属小学校の児童生徒の70名が震災当時の裏話や福島大学の取組などを寄稿しており、執筆者一人ひとりの想いがこもった「ことだま」を感じてもらえる記念誌となっています。

また、本学教育学部卒の和合亮一氏に、この記念誌のために「我らの種子を」という詩を書いていただき、巻頭ページを飾っています。

2019年は、食農学類の創設、既存学類の再編、教育・入試改革元年であり、福島大学にとって、記念碑的な大きな意味を持つアニバーサリーイヤーです。それに相応しい記念誌を作りたい、それなら、他の大学が絶対にやらない記念誌を作ろうという一心で取り組んできました。

震災後8年間の取組が詰まった記念誌を、是非、一人でも多くの方に読んでいただき、ご協力いただければ幸いです。

1. 誌名：福島大学創立70周年記念誌 ことだま
～福島大学の今、そして未来をつづる70の物語～
2. 編集：福島大学創立70周年記念誌編集委員会
委員長 三浦浩喜理事・副学長（教育・学生担当）
3. 体裁：A4判、カラー、100頁
4. 部数：2,000部

【配付先】

今年度開催予定の70周年記念式典や記念イベント時、リノベーション基金^()への寄附者等への配付を予定しています。なお、一般の方でご希望の方には、380円分の切手を貼った角型2号の返信用封筒を推進事務局宛てお送りくだされば郵送いたします。

<https://www.fukushima-u.ac.jp/donation/renovation/>

（お問い合わせ先）

福島大学70周年記念事業推進事務局 高野、木村、福田
〒960-1296 福島市金谷川1番地

メールアドレス：f-family@adb.fukushima-u.ac.jp

024-503-4991 Fax024-548-3180

和合亮一様からのメッセージ

～ 記念誌に寄せて～

70周年記念誌を手にして、改めて、福島大学の取組やそれを支える人々の層の厚さを感じました。福島大学で4年間学んで、今も思い続けている人間として、関わることができたことをとても光栄に思います。

金谷川キャンパスで学んだ青春の日々があったからこそ、自分の人生が開かれたと思います。詩を書くということを通じて、今なお、思い続けているのは、福島大学での青春の風景です。

この記念誌を手にして、皆さんも同じ思いで過ごしていることを感じました。

今の福島大学の姿を丁寧に追いかけることができる素晴らしい一冊だと思います。



福島大学は2019年に
創立70周年を迎えます

福島大学創立70周年記念誌

Fukushima University 70th anniversary commemorative magazine

平成31年 3月11日 発行

福島大学の今、
そして未来をつづる70の物語

ことだま

食農学類

福大70周年に生まれる食農学類 農学系教育研究組織設置準備室長 生源寺 真一	6
福島大学陸上競技部での思い出 同窓生(教育学部) 千葉 麻美	7
環境放射能研究所の取り組み 環境放射能研究所長 塚田 祥文	8
職員から見た震災復興の取り組み 人事課 副課長 木村 真美	10
職員から見た避難所運営、震災復興の取り組み 経済経営学類支援室長 紺野 奈津代	11
震災から8年、食農学類とともに新しい産地の形成を 経済経営学類 教授 小山 良太	12
おかわり農園プロジェクト 経済経営学類 3年 大泉 孝平	13
2020年オリンピック、スポーツによる地域おこし 人間発達文化学類 講師 蓮沼 哲哉	14
トライアスロン競技で2020年東京五輪出場を 人間発達文化学類 1年 長正 憲武	15
被災地復興のモビリティ・デザイン 経済経営学類 准教授 吉田 樹	16
福島にぎわいラボ 附属小学校 6年 七島 海希	17
被災地の資料保全と社会活動・教育実践 行政政策学類 教授 阿部 浩一	18
OECD東北スクールの経験を通して感じたこと 就職支援課 主任 大野 由香里	20
福島大学における国際交流活動 国際交流センター 主任 何 敏	21
福島県における沿岸漁業と水産資源の現状 環境放射能研究所 准教授 和田 敏裕	22
ふくしま未来学の取り組み 総合教育研究センター 特任准教授 前川 直哉	23
震災後の企業と連携した産業復興 経済経営学類 教授 奥本 英樹	24
「事例」の学問 行政政策学類 教授 今西 一男	25
震災後の各地でのマルシェ活動 経済経営学類 准教授 遠藤 明子	26
ファーマーズマーケット 行政政策学類 1年 佐藤 勇樹	27
福島の魅力発信と、自分への挑戦 経済経営学類 4年 畠山 せえな	28

おもむく

元学長の目線から見た福島大学への期待 元福島大学長 入戸野 修	30
保護者から見た福島大学 地域連携課長 高橋 清典	31
福島大学での3年間を振り返って — 1/86の幸運と3/70の幸せ — 理事・事務局長 若井 祐次	32
職員から見た福島大学 教務課長 三本木 勝則	33
母校で働いて 財務課 主事 岩下 悟士	34
An American's University Experience in Japan IER Visiting Professor Thomas Hinton	35
Research activities at the IER IER Project Professor Vasyl Ioshchenko	38
学長室から見た福島大学 学長室 主査 金谷 光泰	40
母校に就職して感じること 財務課 主任 菅野 晃	41
外から見た福島大学 監査室長 高野 佐知子	42
地域と共に歩む 学長室 副室長 加藤 千里	43
図書館から見た福島大学 学術情報課(附属図書館) 主査 芦原 ひろみ	44
母校に就職して感じること 教務課 主事 結城 翔平	45



ロボット技術開発の現状とこれから 共生システム理工学類 教授 高橋 隆行	52
うつくしまふくしま未来支援センターの8年 うつくしまふくしま未来支援センター長 初澤 敏生	54
うつくしまふくしま未来支援センターの設立 農学系教育研究組織設置準備事務室長 山崎 裕	55
福島大学で育んできた資源リサイクルの取り組み 経済経営学類 准教授 沼田 大輔	56
森人(もりんちゅ) 同窓生(行政政策学類) 逸見 翠	57
定例記者会見創設の苦勞について 財務課 主任 鈴木 賢	58
COC+事業「キャリアサポーター制度」 COC+推進室長 南 俊二	59
教育改革の必要性和事務職員として改革に携わっていくこと 教務課 副課長 大河原 正良	60
アドミッションセンターについて アドミッションセンター 特任教授 中村 肖三	61
入試改革について 入試課長 菅野 芳昭	62
哲学カフェ～市井から教育現場へ～ 人間発達文化学類 教授 小野原 雅夫	63

つながる

復興への希望

「かーちゃんのカ・プロジェクトが教えてくれたこと」
副学長 塩谷 弘康 ————— 66

三味線の糸で結ぶ国際交流

附属学校園支援室 主査 猪股 淳行 ————— 67

わらじまつりプロジェクト

入試課 主任 水野 新次 ————— 68

「ふくしまサイエンスぶらっとフォームspff」事業の構築

共生システム理工学類兼総合教育研究センター 教授
岡田 努 ————— 70

学習支援から教育づくりへ

人間発達文化学類 4年 中島 史弥 ————— 71

FURE相双地域支援サテライトによる被災地支援

うつくしまふくしま未来支援センター 特任教授
仲井 康通 ————— 72

福島大学災害ボランティアセンター

行政政策学類 4年 武田 若菜 ————— 73

仕事と子育ての両立

教務課 主任 黒田 絵梨 ————— 74

大学として学校現場にできること

総合教育研究センター 准教授 宗形 潤子 ————— 75

昭和～平成をふりかえって

環境放射能研究所 事務室長 長根 恵工美 ————— 76

津波被災地に関わって

「いわき市豊間地区における実践・研究・教育」
行政政策学類 准教授 西田 奈保子 ————— 77

はるむ

「原発事故のフクシマ」から「教育イノベーションの福島」へ 理事・副学長 三浦 浩喜	80
海外フィールドワークで学ぶアジア 経済経営学類長 佐野 孝治	82
私にとっての福島大学 経済経営学類 3年 椎名 紬	83
福島大学のトラックから夢に向かって 人間発達文化学類 教授 川本 和久	84
映画の世界・映画と世界 行政政策学類 教授 久我 和巳	85
高校生への模擬選挙等活動 行政政策学類 教授 中川 伸二	86
福大Voteプロジェクト 行政政策学類 4年 春菜 孝明	87
FAPを通じた福島でしかできないグローバル人材育成 経済経営学類 助教 マクマイケル ウィリアム	88
中国からの留学生、中高生の台湾サポート 経済経営学類 4年 郭 偉	89
コーオペ教育と地域戦略研究会 理事・副学長 伊藤 宏	90
食をとおした国際交流の取り組み 経済経営学類 准教授 クズネツォーワ マリーナ	91
福島県の水生昆虫と私 副学長 塘 忠顕	92